

川村学園女子大学大学院
人文科学研究科

心理学専攻の概要

修士課程

臨床心理学領域
心理行動科学領域

川村学園女子大学大学院

<連絡先>

川村学園女子大学

我孫子キャンパス 事務部 入試広報
〒270-1138

千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地

TEL. 04-7183-0114(直)

川村学園女子大学大学院の概要

目 次

人文科学研究科 心理学専攻 ディプロマ・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	2
人文科学研究科の概要	4
目的、標準修業年限、修了要件、入学定員・収容定員、 役職教員、図書館、教育職員免許状、公認心理師、臨床心理士、奨学金	
心理学専攻の概要	6
心理学専攻修了後の進路等について	6
修士論文指導教員選定資料	8
教員紹介	11

各研究科の履修要綱やシラバス等の詳細は本学ホームページにあります。

本学トップページの「キャンパスライフ」→「川村学園女子大学 履修案内・シラバス」
から参照してください。

アドレスは <https://www.kgwu.ac.jp/campuslife/syllabus/> です。

また、こちらのQRコードからもアクセスできます。

人文科学研究科（大学院）はページの下の方にあります。



この概要は2021年度の内容です。2022年度に一部改訂される場合があります。

人文科学研究科 心理学専攻 ディプロマ・ポリシー

【学位授与方針】

人文科学研究科心理学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

人文科学研究科心理学専攻における体系的学習を通じて、心理学についての高度でかつ広範な専門的知識・技能を修得して、それらを現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと論理的思考力・創造的思考力を身につけていること。

専門職・研究者として社会において求められる態度・責任感・倫理観を持ち、豊かな感性を持って、主体的かつ協同的に社会に奉仕する志を養っていること。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 専門的知識 分析・表現・応用力

心理学全般に関する高度な知識や方法論・実践論等に精通し、専門領域において求められる分析力・表現力・応用力を十分に修得していること。

2. 専門職・研究者としての態度（主体性 協同 社会規範）

時代に求められる、自覚ある専門職・研究者として、その責務を十分に理解し、適切な倫理観と豊かな感性とともに、常に科学的視座をもち、主体的かつ協同して社会諸課題解決に向け貢献する志を修得していること。

3. 心理臨床専門職としての能力修得

心理臨床の場における多様な状況において、充分に対応できる実践力や、治療的理論・技法等に習熟し、かつ、人間に対する深い洞察力・共感性を修得していること（臨床心理学領域）。

4. 心理行動科学研究実践のための能力修得

専門的領域における最新の知識・研究等に精通し、更に、自らそれを分析・深化する能力を有し、各研究領域において、応用・探究できる能力を修得していること（心理行動科学領域）。

【学位授与の要件】

心理学専攻の教育目標を理解し、必修科目を含む設置された講義・演習・実習科目から30単位を履修し、専門的知識、実践的スキル、専門職・研究者としての態度・能力を修得していること。

【教育課程の編成】

臨床心理学領域：

1. 臨床心理学の基礎を必修とし、実習・スーパーヴィジョンにより心理臨床領域の実践力が身につくようカリキュラムを編成する。
2. 臨床心理学の基礎と実習のみならず、認知・社会・発達など幅広い科目を設置し、心理学全般の高度な知識、理解力を養成する科目を設置する。
3. 多様な現場に対応した即戦力・応用力を身につけられるよう、各種の治療的理論や技法、心理療法を修得するための科目を配置する。

心理行動科学領域：

1. 最新の研究成果を示し、心理学の専門職に求められる高度な知識や分析力を修得できるようカリキュラムを編成する。
2. 認知心理学分野と社会心理学分野を中心に、人間の知的機能や対人関係のメカニズムを深く探究し、主体的に研究を行い得る能力を養成する科目を配置する。

【学修方法・学修過程】

1. 講義科目

臨床心理学領域では問題解決型学習、役割体験学習、課題学習を行う。心理行動科学領域では問題解決型学習、課題学習を行う。教員と院生だけでなく院生同士の討論を行うことによって、学習目的達成および学習内容の理解を深める。

2. 演習科目

課題に取り組むために、文献講読・調査を主に行う。講読・調査内容はレジメを作成するだけでなく内容についてのプレゼンテーションを行う。院生間、院生と教員間で討論を行い、レポート作成によって課題の理解を深める。

3. 実習科目

臨床心理学領域においては、学内の臨床心理相談センターおよび学外の医療・教育・福祉・司法・産業等の多領域にわたる実習協力機関で、実習を行う。事前指導における倫理的な教育はしっかり行う。実習に関するスーパーヴィジョンおよびケース・カンファレンスを通じた丁寧な指導を行うことにより、院生の理解を深める。

4. 研究指導

実証的、論理的な研究を進めるため、テーマの選定や実証方法・分析方法の選択、論文構成や内容等に関して、指導教員が綿密な個別指導を行う。また、中間発表会・最終報告会等により集団指導を行う。両領域とも研究指導の中で研究倫理を丁寧に学ぶ。

5. 特色ある教育

臨床心理学領域では、臨床心理学領域以外の多様なカリキュラムを設置し、心理学全般に関する幅広い視点での学修が可能である。また、多彩な実習先を設定しているため、心理臨床の実践力が身につく。心理行動科学領域では、認知心理学と社会心理学を中心とした高度な知識と分析力の修得が可能である。

6. キャリア教育

学内・学外の機関等で実習・調査を行う場合、事前に日本臨床心理士会の倫理綱領および日本心理学会倫理規程に基づく倫理や各機関の職務規程についてのガイダンスを実施する。大学院修了後も外部

実習・調査についてのレポート作成・報告および研究論文作成などに際して、守秘義務と個人情報保護に関する指導を行う。

各種学会への入会と参加を推奨している。臨床心理学領域では日本心理臨床学会、心理行動科学領域では日本心理学会、への入会および学会活動を勧めている。

臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士受験のサポートを行う。

7. 学生への教育支援

研究・実習を円滑に行うために、情報・研究機器および心理検査器具を多数用意する。また体験・実践的な学びを深めることのために、実習・演習科目ではグループ活動を含めたアクティブラーニングを積極的に取り入れる。また公認心理師・臨床心理士資格に関する情報提供をし、個別サポートや授業外講習会を行う。

【学修成果の評価の在り方】

受け身の学修ではない学生の主体的な課題解決への取り組みを重視する。取り組んだ課題について、テーマ選択から結果の分析・検証に関してのまとめ方を評価する。その際、レポートそのもの、およびプレゼンテーション・討論能力等を総合的に評価する。

人文科学研究科の概要

○目的

教育基本法、学校教育法および川村学園創立の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、清深な学識と研究能力を養うことによって、広く文化の向上進展に寄与することを目的とします。

現代社会には、諸問題に対して未来を予見し、深く真摯に考究し、問題解決能力を備えた指導的役割を果たす人材育成が、最も緊要なことであります。本大学院は、これに応えるべく、高度な専門性を持つ職業人の育成や研究者の養成、さらに意欲ある社会人の再教育を行うプログラムが設定されています。

本大学院は、「心理学専攻」、「教育学専攻」、「比較文化専攻」の3専攻で構成される男女共学の**大学院**です。「心理学専攻」、「教育学専攻」は修士課程、「比較文化専攻」は博士課程（前期・後期）が設置されています。

学界の重鎮・一流・気鋭の学究を擁し、最新の設備と教育機器さらに豊富な図書により、院生一人ひとりの個性・特性を尊重しつつ、教員スタッフの渾身の指導が展開されています。

○標準修業年限

標準修業年限は、心理学専攻、教育習学専攻の修士課程および比較文化専攻博士前期課程（修士）は2年、博士後期課程（博士）3年とします。なお、在学期間は修士課程および博士前期課程では4年、博士後期課程では6年を超えることができません。

○修了要件

心理学専攻、教育学専攻の修士課程および比較文化専攻博士前期課程では、2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に**修士**の学位を授与します。（ただし、在学期間に関しては、本大学院が特に優れた研究業績を挙げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。）

比較文化専攻博士後期課程では、3年（修士課程または博士前期課程に2年以上在学し当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年以上の在学期間を含む）以上在学し、14単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に**博士**の学位を授与します。（ただし、在学期間に関しては、本大学院が特に優れた研究業績を挙げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。）

本大学院において授与する学位は次のとおりです。

専攻	学位の種類
心理学	修士（心理学）
教育学	修士（教育学）
比較文化（前期）	修士（文学）
比較文化（後期）	博士（文学）

○入学定員／収容定員

専攻	入学定員	収容定員
心理学	10名	20名
教育学	5名	10名
比較文化（前期）	5名	10名
比較文化（後期）	3名	9名

○役職教員

学長：熊谷 園子	副学長：西川 誠	
研究科長：西川 将巳		
心理学専攻長：西川 将巳(兼任)	教育学専攻長：内海崎 貴子	比較文化専攻長：高山 啓子

○教育職員免許状

本大学院において取得できる教育職員免許状の種類・教科および認定課程は、次のとおりです。

免許状の種類および教科	認定課程としての専攻	基礎資格および修得単位数
高等学校教諭専修免許状（公民）	心理学専攻	修士の学位を有し、本大学院における教科および教職に関する科目24単位
小学校教諭専修免許状	教育学専攻	
中学校教諭専修免許状（英語）	比較文化専攻	
高等学校教諭専修免許状（英語）		
中学校教諭専修免許状（社会）		
高等学校教諭専修免許状（地理歴史）		

専修免許状を取得しようとする場合（申請手続きについては別に定められている）、専修免許状と同一教科の「小学校教諭一種免許状」、「中学校教諭一種免許状」あるいは「高等学校教諭一種免許状」をすでに取得していることを原則とします。

○公認心理師

公認心理師法第7条に則り定められる「区分E」に従い、本大学院において施行規則第2条で定める科目を履修することにより「公認心理師」の受験資格を取得できます。（他「区分」に対応できる場合もあります。応相談。）

○臨床心理士第1種指定大学院

本大学院心理学専攻臨床心理学領域は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から2009年4月1日より「臨床心理士第1種指定大学院」の指定になりました。

臨床心理士学領域の院生が、次の要件を満たし、（財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」の受験資格を取得できます。

- (1) 指定された専攻・課程（領域・コース）の修士課程を修了していること。
- (2) それぞれ指定の26単位以上修得していること。
- (3) 修士論文が臨床心理学に関すること。

○図書館（「黄鶴館」）

図書館は、院生にとって欠かせない文献・資料を総合的に収集・保存・提供するいわば「知の殿堂」であり、利用者である院生をあたたかく迎えてくれます。

蔵書冊数は約235,000冊、視聴覚資料約14,500タイトルです。本学と時期を同じくして設立された大学図書館としては、格段な蔵書冊数を誇っています。とくに、院生が有効に利用できるよう、次のサービスを行っています。

- (1) 貸出冊数・期間：10冊 1か月（延長手続き制度あり）
- (2) 文献探索ガイダンス：毎年度実施
- (3) レファレンス・サービス

司書は、あらゆる資料に関する相談に応じます。本館に求める資料がない場合は、図書館相互利用制度により、外部機関を紹介すると同時に、必要あればその資料を取り寄せます。

○奨学金

- (1) 川村学園奨学融資金制度

在学中に経済的理由のため、学業を継続することが困難になった場合に貸与を受けられる本学園独自の奨学制度です。その種類には、第I種から第IV種まであります。

- (2) 日本学生支援機構奨学金制度

人物・学力ともに優秀でありながら、経済的理由のために、修学困難になった場合に貸与を受けられる奨学金です。学長の推薦があり、日本学生支援機構において審査・選考された院生に対して貸与されます。

心理学専攻の概要

現代社会は大きな変動期を迎え、ますます複雑・多様化してきている。その現代社会との関わりの中で人間の心とその本質について、さまざまな科学的見地から正確にしてトータルな知識を持つとともに、具体的な現実認識のもとで人間性の深淵をあきらかにすることが重要であり、人間社会の将来をいかに設定すべきかの切実な課題にとりくむことが求められている。心理学は、その目的達成に向かい重要な役割を担っており、科学的方法論をもって、人間活動の全般について充実した研究・実践を続けている。その内容は、理論と応用、あるいは個人と社会、基礎と臨床というような対称的な諸軸による領域に分類され、それらは互いに密接な関連をもって構成され、そこでは、人間同士の直接の接触を基底にして研究データや必要情報が収集され、分析・考究されるとともに、一方では最新の様々な電子機器による厳密な測定や、高度の統計的数学的分析を駆使した結果の解析が行われている。また、情報科学という関連分野を結ぶ学際的研究活動の一環として、理工学に関連してコンピューターを媒介とする人工知能の構築とも関わり、他方では医学・生理学に関連して大脳の機構と精神作用との対応の解明にも関与してきており、それらを通じて、人間の心のブラックボックスの解明に寄与している。

心理学専攻は、文学部心理学科を基礎とし、その教育・研究(教育課程及び教員構成)の特色をも配慮して、臨床心理学領域、心理行動科学領域の2領域から構成される。

これは学科の延長としてさらに高度の知識の修得を目指し、また独創性の豊かな研究を期待するものであり、広く社会における心理学関係の指導的役割を果たすことの可能な人材の育成を目標としている。また臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士としての資質をはぐくむとともに、臨床現場でも十分に機能しうる人材の育成を目標としている。

「臨床心理学領域」においては、心の健康障害(適応不全や精神障害)や高齢者問題等の本質の探究及びそのために必要な測定・診断・治療・予後等の理論や技能の修得及びその実践を中心に、公認心理師・臨床心理士としての資質をはぐくむ。臨床現場でも臨床の専門家として十分に機能しうる資質を修得できるよう意図している。

「心理行動科学領域」においては、心理学をより専門的に学び、将来、心理学の専門的職業に就いたり、博士課程に進学することを目指している。知覚、記憶などの認知心理学分野と対人認知、文化などの社会心理学分野を中心に、各分野を専門とする教員から研究指導を受けながら、人間の知的機能や対人機能のメカニズムを科学的に探求することを意図している。

「臨床心理学領域」では、公認心理師必修10科目が整備されている。そして臨床家としての知識や技能の充実を図るため、「臨床心理学特論」をはじめとする必修科目5科目16単位を必修としている。さらに、臨床心理士取得のための選択必修科目5群も整備されている。また、指定病院等と連携して「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)」、「臨床心理実習Ⅱ」を実施しうる体制を整えており、臨床現場での実体験を通じて、理論や技術の検証と修得が十分に可能となるように配慮している。

「心理行動科学領域」では、専門的知識の充実ならびに研究法の修得を図るため、専攻した領域で開設される選択必修科目の中から1科目以上を必修とするとともに、これらに領域共通の科目群の中から選択された科目を加えた計24単位以上を修得させる。

また、各領域とも1年次より自由にテーマを定めて充実した研究指導を行えるように配慮し、「特別研究」として6単位を定め、大学院学生の自主的・積極的な研究活動意識を高揚する。

心理学専攻修了後の進路等について

心理学専攻の修了生は、学術研究の高度化と優秀な研究者の養成を目指す博士課程にさらに進学する者のほかに、現代そして将来に求められる専門的知識及び実践技能を基礎として、人間性を尊重し広い視野をもって時代の変化に対応しながら、様々な社会活動の場における指導者として活躍するものと期待される。特に、カウンセリングについては、心身の健康障害の増加を背景としてその需要が顕在化しており、各種医療施設・社会福祉施設・教育機関等の職域において、社会に貢献しうると考えられる。

また、予想される主な修了後の進路としては、以下のようなものが挙げられる。

- ・ 児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、婦人相談所等の福祉機関及び障害児(者)入所・通所施設等の専門職員
- ・ 病院、クリニック、精神保健センター等の医療施設の専門職員
- ・ 少年鑑別所、少年院、刑務所等の矯正保護機関および施設等の専門職員
- ・ 家庭裁判所等の調査官
- ・ 一般企業・事業所等に設置された保健センター、産業カウンセラー他、心理相談所等の専門職員
- ・ 教育行政機関、教育研究機関、社会施設等の専門職員
- ・ その他各種社会福祉法人、財団法人、特殊法人等の専門職員

「公認心理師」

資格の概要 「公認心理師法」に書かれている心理職の国家資格。

取得の条件 大学・大学院の両方で、必要な科目を履修し修了する。もしくは大学で必要な科目を履修した後、一定期間、一定施設で実務に従事する。これらの条件を満たした後、国家試験に合格すると資格が得られる。

「臨床心理士」

資格の概要 文部科学省が認可した（財）日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格。

資格取得後も5年毎に活動や研究の成果の確認があり、基準を満たしていれば継続される。

取得の条件 臨床心理学領域修了後に受験資格が得られ、資格認定協会の試験に合格すると資格が得られる。

「シニア産業カウンセラー」

資格の概要 （社）日本産業カウンセラー協会が認可する資格の一つである。

取得の条件 心理学又は心理学隣接諸科学を専攻し、心理学の授業科目より8単位以上修得し、修士の学位を得ると、受験申請資格が得られる。学科試験および実技試験合格者が資格を認定される。

修士論文指導教員選定資料（「心理学特別研究」の内容）

【臨床心理学領域】

教授 西川 將巳

元来、心療内科臨床医であるが、心療内科における治療には心理療法が不可欠である。臨床講義においては、心身医療において必須である種々の心理療法の修得を目指して指導している。研究領域は、心身相関に基づいた脳機能研究である。自らの研究テーマに加えて、今の関心は、「心理学」と「医学」をいかに橋渡しすることができるかということ。臨床を志す学生のサポートができればと考えているが、臨床を支えるものは、evidenceであると信ずる。大学は、学生を育てる場であると同時に、学問の場である。心理臨床の場で発揮できるような臨床的センスを鍛えると共に、心身相関や脳・神経機能等に関する研究にも携わって行きたいという気概ある学生とともに、様々なDiscussionを行っていきたい。

教授 簗下 成子

数百件の司法精神鑑定心理助手の経験から、犯罪心理学の研究を実施しています。芸術と臨床心理学を融合させ、その人らしさとは何かを臨床心理学的に追求しています。1. 各種の芸術療法、なかでも即興を用いた作曲療法を実践しながら、ストレス緩和作用を調査しています。2. 表情認知能力を測定する心理テストや、雑談力を測る心理テストを日本古来の芸術である能面や鳥獣戯画などを用いて開発しています。3. 犯罪心理学(臨床心理学的アプローチ)の分野では、臨床力を養うために、精神鑑定心理助手の陪席や各種心理テスト解析(ロールシャッハテスト、MMPI、SCT、WAIS等)を通して、実施方法、解析技術、解釈や心理テストバッテリーの組み方、レポートの作成方法を学ぶ。また、心理テスト結果をフィードバックする手法も学んでいく。

また調査研究や実験研究がどのように臨床の現場で役立っているかを体験させる。そのなかで医師、看護師、精神保健福祉士等の他業種のエキスパートとどのように連携していくのかを実践しながら学ばせる。

教授 田中 裕

「こころと身体」の関連という視点から人間の心を捉えることは、基礎的な心理学のみならず臨床心理学において必要不可欠である。本特別研究は、脳波・心電図・皮膚電気活動等の生体電気信号およびコルチゾルおよび α -アミラーゼ活性等の測定結果に基づいた修士論文作成に関する研究指導および助言を主とする。しかし、各個人のニーズに配慮しつつ、健康心理学的な視点(たとえば、日常の生活リズム等を基盤とした心と身体に関する研究やストレス研究)を持った修士論文作成にも対応する。

准教授 今井 正司

認知行動療法の作用機序を注意制御とメタ認知の観点から解明し、それらの知見をカウンセリングや教育支援において実践することを目的に研究を行っている。具体的には、新世代認知行動療法と称されるマインドフルネスに共通性をもった介入技法における治療機序の異同を明らかにし、抑うつ、不安、強迫、社交不安、月経関連症状、慢性疲労などにおける病理モデルなどを再構築している。また、それらの症状を緩和させる介入法とその評価法の開発にも力をいれている。教育分野においては、神経行動学と教育学とを融合した「神経行動教育学(neuro-behaviour education)」というアプローチに挑戦しており、幼児期から青年期にいたる学習プロセスへの実践的支援にこれらの知見を応用している。また、子どもたちの脳機能の発達という観点をふまえながら、マインドフルな子育てやマインドフルな教育について、保護者や教育・保育者を対象にした支援とその評価を行なっている。

准教授 佐藤 哲康

学校・教育領域の臨床活動を通して、児童生徒や学生のメンタルヘルスを中心に研究と実践をしてきた。特別研究ではカウンセリング心理学の立場から予防や心理教育、特に青年期の心性について取り上げる。研究へのアプローチは仮説生成と仮説検証の双方が不可欠であると考えており、混合研究法についての理解を深めることを目的として指導をしていく。大学院生には研究への興味が学術としての意義と独創性を有する修士論文になることを期待したい。

修士論文指導教員選定資料（「心理学特別研究」の内容）

【心理行動科学領域】

教授 鶴沼 秀行

心理学特別研究

知覚・認知心理学分野における実験心理学的研究についての研究指導をおこなう。特に視覚についての情報処理的研究および計量心理学的研究をとりあげる。指導可能な具体的テーマとしては、形と物体の知覚、視覚的注意、知覚学習、表情知覚などが考えられるが、そのほかの計量心理学的研究を中心とする認知心理学的研究テーマについても指導テーマに含めることがある。基礎的な研究法、特に実験法やデータ分析法、および論文の読解と執筆についての指導助言に重点をおく。学会発表や学術論文投稿を奨励する。

教授 田中 裕

生理心理学・精神生理学領域の研究指導を行う。基本的には、脳波・心電図・皮膚電気活動等の生体電気信号およびコルチゾルおよび α -アミラーゼ活性等の測定に基づいた修士論文に関する研究指導が主体になる。測定技法未習得者への対応も心がける。また、日常の生活リズム等を基盤とした心と身体に関する研究やストレス研究といった健康心理学的な指向を持つ方への対応も行う。

なお、研究成果については積極的に公にする(学会発表および審査論文投稿)ことを強く奨励する。

准教授 桂 瑠以

社会心理学領域の研究指導を行う。特に、社会事象及びそれに関連する心理・行動要因を対象として、調査研究、実験研究などの研究法を用いて、実証的に検討する。現在の主な研究テーマとしては、インターネットが利用者に及ぼす影響に関する研究、インターネットシステムの開発と効果検証等を行っており、こうした分野を中心とした研究指導にあわせて、研究法、分析法、研究結果のまとめ方等についての指導を行う。研究成果については、学会発表や投稿論文等により積極的に社会に還元することを強く奨励する。

教員紹介
【臨床心理学領域】

教授 西川 將巳

人文科学研究科長、心理学専攻長、心療内科医(日本心身医学会認定専門医)、臨床心理士、公認心理師、日本医師会認定産業医	
専門分野	心身医学(心療内科)、脳神経科学
研究テーマ	心療内科領域における心身相関に基づいた脳機能研究。EEG(脳波計)、MEG(脳磁図)、fMRI(機能的MRI)、PET(ポジトロンCT)などを用いた脳機能画像解析研究が中心。摂食障害やストレス負荷時の脳血流研究に加え、カナダ・モントリオール神経研究所への留学時には、PETを用いた脳内のセロトニン合成系の研究に携わった。また、パニック障害患者に対し心理療法(認知行動療法)を行い、脳内の機能がいかに回復するかということを明らかにした研究に携わる。最近では、EU-ADNIの主要機関であるイタリア・IRCCSアルツハイマー研究所でアルツハイマー病の脳画像研究に携わった。

教授 簗下 成子

心理相談センター長、臨床心理士、公認心理師	
専門分野	臨床心理学、表情認知の臨床心理的アプローチ、高次能機能患者に対する治療的心理テストの開発、芸術療法、災害時の心理援助
研究テーマ	統合失調症患者、脳腫瘍患者を対象とした能面を用いた表情認知研究やこころの理論についての実験的手法による展開。音楽療法などを中心とした芸術療法の開発。東海村臨界事故後の住民の臨床心理的調査と援助。

教授 田中 裕

心理学科長、博士(心理学)	
専門分野	生理心理学、精神生理学
研究テーマ	こころと身体の関連の多面的評価を主たる研究テーマとしております。中でも特に瞬目活動(まばたき)の心理学的研究に強い興味があります。近年は意図的に瞬目を起こすことの心理学的意味について研究を進めております。また大学院生とともに、睡眠-覚醒リズム変動と環境適応に関する研究、コルチゾールおよび α -アミラーゼ活性を使用した不安状況評価に関する研究、等も行っております。

准教授 今井 正司

臨床心理士、公認心理師、特別支援教育士、専門健康心理士	
専門分野	認知行動療法・特別支援教育・神経教育学・マインドフルネス
研究テーマ	注意とメタ認知の機能から症状の理解と支援方法を開発すること

准教授 佐藤 哲康

臨床心理士、公認心理師、大学カウンセラー	
専門分野	青年期臨床心理学(学生相談)、認知行動療法、グループカウンセリング、アサーション・トレーニング
研究テーマ	大学生の人間関係や自己表現に関するアセスメントツールの開発、個別また集団を対象にしたアサーション・トレーニングの実践と消極的なコミュニケーションの変容。

講師 松岡 靖子

臨床心理士、公認心理師	
専門分野	発達心理学、臨床心理学、スクールカウンセリング
研究テーマ	学校現場での子どもの発達支援、教職員とスクールカウンセラーの連携、常勤型スクールカウンセラーの活動の課題。

教員紹介
【心理行動科学領域】

教授 鶴沼 秀行

文学部長、博士(教育学)	
専門分野	知覚・認知心理学
研究テーマ	人間の視覚的認知に関する実験心理学的研究。特に、形の知覚、対象(物体)認知、視覚的注意、知覚学習、表情知覚、などをテーマとしています。

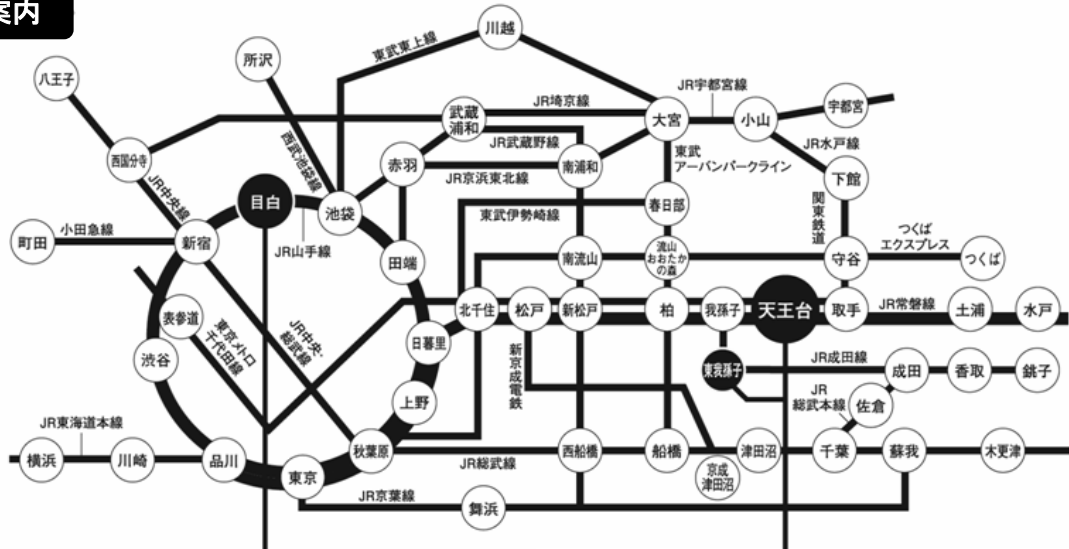
教授 田中 裕

心理学科長、博士(心理学)	
専門分野	生理心理学、精神生理学
研究テーマ	こころと身体の関連の多面的評価を主たる研究テーマとしております。中でも特に瞬目活動(まばたき)の心理学的研究に強い興味があります。近年は意図的に瞬目を起こすことの心理学的意味について研究を進めております。また大学院生とともに、睡眠-覚醒リズム変動と環境適応に関する研究、コルチゾールおよび α -アミラーゼ活性を使用した不安状況評価に関する研究、等も行っております。

准教授 桂 瑠以

博士(人文科学)	
専門分野	社会心理学、教育心理学、発達心理学
研究テーマ	現在は、インターネットが利用者に及ぼす影響、インターネットシステムの開発と効果検証等を中心に研究を進めております。また、インターネットリテラシーを向上させる要因の検討、ネットラブルへの対処方略に関する研究等も行っています。

交通案内



目白 キャンパス



目白キャンパスまでの行き方
改札を出て左側交番脇にある階段を下る。皮膚科と喫茶店の間にある細道を上がり道なりに進むとつきあたりに入ります。

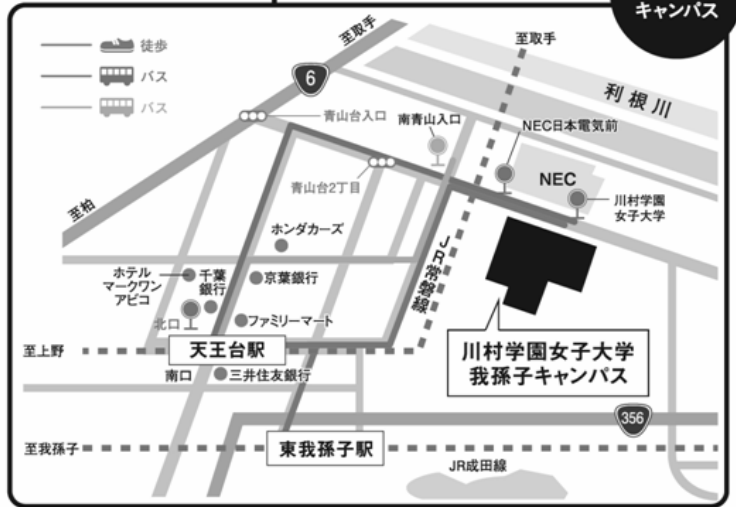
所要時間

●「日暮里」から15分	●「大宮」から30分
●「新宿」から7分	●「川越」から44分
●「渋谷」から13分	●「所沢」から37分
●「町田」から60分	●「八王子」から54分

※時間はあくまでも目安としてご利用ください。

JR山手線「目白」駅下車
徒歩2分
〒171-0031
東京都豊島区目白
3丁目1番19号
tel.03-3951-0111(代表)

我孫子 キャンパス



所要時間

●「日暮里」から32分	●「土浦」から29分
●「新宿」から57分	●「水戸」から78分
●「渋谷」から63分	●「船橋」から43分
●「大宮」から69分	●「千葉」から64分
●「春日部」から53分	●「成田」から36分
●「東京」から47分	●「上野」から36分

※天王台駅、または東我孫子駅までの所要時間です。時間はあくまでも目安としてご利用ください。

JR常磐線「天王台」駅下車
北口からバスで約4分

- 川村学園女子大学行き終点下車 (平日のみ運行)
- 大和団地行き「川村学園女子大学」下車
- NEC日本電気前行き終点下車徒歩2分 (土曜・日曜・休日)
- 南青山循環「南青山入口」下車徒歩3分 ※北口から大学までは徒歩20分

JR成田線「東我孫子」駅下車、徒歩20分 ※電柱広告に沿っておこしください。

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地 tel.04-7183-0111(代表)

川村学園女子大学

我孫子キャンパス：〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133 Tel. 04-7183-0111 (代表)
目白キャンパス：〒171-0031 東京都豊島区目白3-1-19 Tel. 03-3951-0111 (代表)

- 文学部 国際英語学科* 史学科 心理学科 日本文化学科
- 教育学部 幼児教育学科 児童教育学科
- 生活創造学部 生活文化学科 観光文化学科* *国際英語学科と観光文化学科は目白キャンパス
- 大学院 心理学専攻 教育学専攻 比較文化専攻 大学院は我孫子キャンパス

入学試験のお問い合わせは、我孫子キャンパス事務部入試広報へ

Tel. 04-7183-0114 Fax. 04-7183-0115